

教えて! 市立病院



【今月のドクター】
副院長兼
心臓血管外科長
佐藤 洋一 医師

下肢静脈瘤は、下肢※¹の皮下静脈が瘤状に膨れ上がり、立つと目立ちますが横になると消えてしまいます。足の先から心臓に戻る静脈の血液が下がらないように皮下静脈に膜状の弁があるのですが、これが壊れるのが原因です。

下肢、特に下腿※²に瘤が出てきて、下肢が重い、だるい、疲れやすい、

※1：足、脚部 ※2：ひざから足首までの部分

〈第118回〉

か し じょうみやくりゅう 下肢静脈瘤治療に硬化療法が加わりました

■問合せ／市立病院総務課企画財務担当 ☎ 22-2450

むく 浮腫む、痛い、痒い、夜間痙攣（こむらがえり）などの症状が出てきたら早めに治療を考えるべきです。放置すると炎症を引き起こしたり、潰瘍になったりとさまざまな合併症が出てくる可能性があります。

治療は、比較的真っすぐで長い皮下静脈の逆流にはカテーテルを挿入してレーザーで焼灼（焼いて閉塞させる）する方法が一般的です。しかし、これらの静脈には逆流がなく、別の部位に逆流が生じて瘤（お尻から太ももや膝の後ろ側に瘤を認めることも多いです）になっている場合には、レーザーは使用できません。

これまでは小さい傷を何箇所か加えて地道に瘤を摘出していましたが、新病院になってから硬化療法を開始しました。傷をつけずに瘤の中にポリドカノールという硬化剤を注入して静脈壁をくっつけ、血液が入らなくする方法です。1回で治療できる範囲は決まっており、何回かに分けて行う必要があります。レーザー治療は1泊2日の入院が必要ですが、硬化療法は入院せず外来で治療可能です。

下肢に静脈瘤があり症状を認めたら、当科外来を紹介状持参で受診して下さい。超音波検査で原因を調べ、治療法を判断します。